

大正期、飛騨地域の教育に貢献

篠原無然の功績たどる

栃尾、本郷小児童

大正期に旧上宝村を中心に飛騨地域で活躍した教育者、篠原無然について学ぶ授業が、高山市奥飛騨温泉郷栃尾の栃尾小学校で始まった。同校と本郷小学校の6年生26人が、全4回の授業を通して無然の教育にかけた思いなどについて考えを深めている。

(龜山大樹)

遺稿などで人物像探る

無然は兵庫県美方郡西浜村出身。栃尾小の前身、旧上宝村立第一尋常高等小学校などで代用教員を務める傍ら、地元青年会や婦人部の活動を指導し、登山道を整備するなど郷土の発展に貢献した。

古里への理解を深めようと、両校は3年前から、無然の研究を長年続ける元高山市教育長の森瀬一幸中部大教員教授を招き、授業講話を行っている。

今年の初授業では、

篠原無然の遺稿を読み解き、人物や考えを学ぶ授業が、高山市奥飛騨温泉郷栃尾、栃尾小学校



栃尾小の金庫に保管されていた無然の写真や履歴書を見た後、無然が人の生き方などについて記した遺稿を読み解いていった。一方で森瀬さんは、無然が赴任時に松本市から旧上宝村までげたと羽織、はかまだけで歩いて来たエピソードも紹介。児童からは「人のことをよく研究している人」「行き当たりばったりな人」などと無然のさまざまな面を捉えた意見が出された。

今後の授業では、無然の功績や地域の人の関わりなどについて学んでいく。

2015/10/1 岐阜